

平成 28 年度 岡山大学大学院法務研究科
法学既修者入試 C 日程 試験問題

公 法 系（憲法）

解答上の注意

1. この問題冊子は、表紙を含め 2 枚である。
2. 配点は、50 点である。
3. 表裏に解答欄がある解答用紙は、1 枚が配布されている。
4. 解答用紙の受験番号欄に受験番号を算用数字で記入し、また試験科目欄に「公法系」と記入すること。なお、整理番号等その他の記入欄には記入しないこと。
5. 試験終了後、問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ること。
6. 解答の際は、黒又は青のボールペンを使用すること。
7. 試験終了後、解答用紙と貸与した穴法を回収するので、指示があるまで席を立たないこと。
8. その他は、すべて監督者の指示に従うこと。

【問題】

次の場合について、憲法上の問題を指摘して論じなさい。その際、判例の考え方を支持するかどうかはともかく、判例にも必ず言及しなさい。

Yは、平成*年*月*日施行の衆議院議員総選挙に立候補した者である。Yは、立候補の届出をしないうちから、自らが立候補を予定している選挙区に居住する有権者の居宅を戸別に訪問し、自己に投票するよう依頼した。その結果、Yは、この行為が公職選挙法第129条1項、第138条1項並びに第239条1項1号及び3号に該当するとして、起訴された。

《公法系問題 以上》

【出題意図】

問題

本問は、公職選挙法による事前運動及び戸別訪問の禁止の合憲性、すなわち表現の自由の制約の合憲性という基本的な論点について問うことで、判例の知識を含めて、基礎的な知識の有無を測ることを目的としていた。